

製鉄よりマテリアルへ社名変更の思い

2021年10月1日に72年間慣れ親しんだ「新報国製鉄株式会社」を「新報国マテリアル株式会社」に変えました。

社名を変える決断の背中を押ししたのは、2020年に発表された東証の市場再編です。ジャスダックに上場している我社も来年の4月にはスタンダードに鞍替えになります。今まで以上に株主の皆様を大切に、一般投資家へのIRを強化して行く必要があります。その為には会社の実態をより理解してもらわなければなりません。その入口が社名です。



新報国製鉄と言う社名に愛着がありますが、しばしば普通鋼電炉メーカーに間違えられることがありました。我社は、低熱膨張合金を主力とし、耐熱耐摩耗鋼、チタン合金、錫合金など多岐にわたる開発型の特殊合金メーカーであり、その実態を表わす社名に変えようと思ったのです。社名を変えるにあたって私の頭に浮かんだのは、芭蕉の「不易流行」という言葉です。

2008年、我社はリーマンショックに襲われ、会社存亡の危機に遭遇しました。それを乗り越えられたのは、現象的には社員が一丸となって構造改革に邁進した結果ではありますが、本質的には、この会社の先人達が築いた「技術力」があったおかげです。小さな鋳物会社でありながら研究部門を持ち、歴代社長を先頭に優秀な技術者が推し進めた材料開発の情熱であり、それを具現化した現場の力があったからだと思います。その魂が「新報国」と言う言葉の中に宿っています。これは変えてはいけません……と。

そして今、先人の魂を引継いだ若い力が育っています。研究者は20代30代であり、その若い力がゼロ膨張インバー、高剛性インバーなど次々と新材質を開発しました。現場の若い力は、温度、酸素、水素の管理を徹底し、鋳造シュミレーションを実用化に漕ぎ着けるなど飛躍的に品質を向上させました。さらに新材質の開発、製造に挑戦する力を体現する言葉として社員が選んだのが「マテリアル」です。こうして新しい社名「新報国マテリアル株式会社」は皆の総意で決まりました。

私は、日本の物づくりの原点は、ソニーの井深大さんが掲げた「真面目な技術者の技能を、最高度に発揮せしむ自由闊達な愉快なる工場の建設」。本田宗一郎さんの「需要がそこにあるのではない。我々が需要を作り出すのだ」と言う心意気であると思っています。私達もこの新しい社名を掲げて「社会のニーズに答えるだけでなく、材料開発を通じて社会を変える」と言う心意気で、次の飛躍を実現したいと思っています。その実現の為に、私自身、社員の先頭に立って頑張っていく所存です。

頑張るぞ！「新報国マテリアル株式会社」

新報国マテリアル株式会社
代表取締役社長 成瀬 正